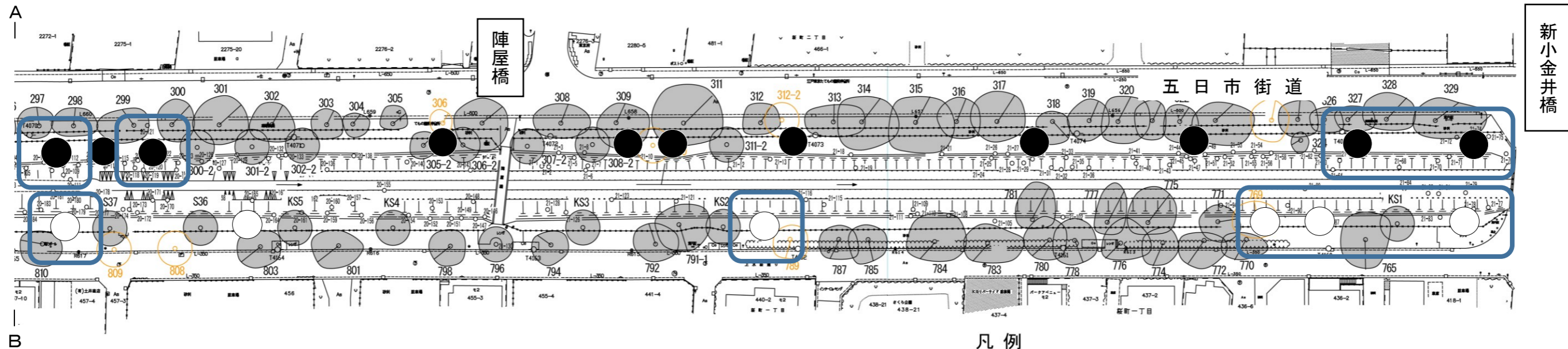
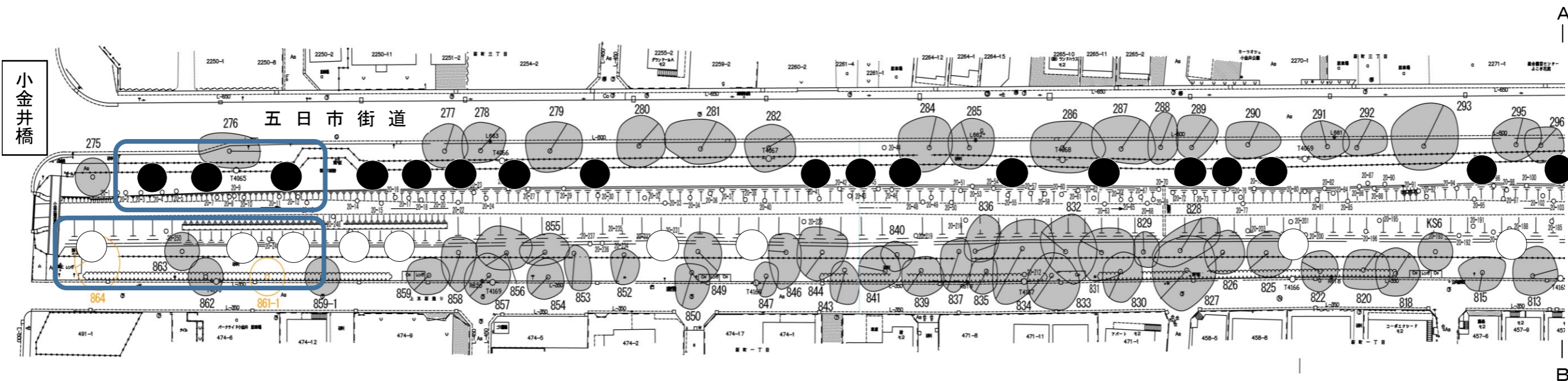


名勝小金井(サクラ)復活事業 (小金井橋から新小金井橋間の補植計画)

小金井市玉川上水・小金井桜整備活用推進委員会
平成29年10月6日



凡例

名称	記号
小金井サクラ	●
平成29年度補植箇所	□

整備内容

既存のサクラ並木の生育状況や、雑木の繁茂の状況を考慮しながら、平成29年度から平成31年度までの3年間で段階的に整備を行う。

1 整備対象区間

小金井橋～新小金井橋間距離約550m

2 平成29年度補植予定本数

左岸（北側）●：7本 右岸（南側）○：8本 合計：15本

3 対象区間の状況

- (1) 左岸は、高木の樹木が多く生育密度が高い。このため、樹木がサクラを被圧し、ほとんどのサクラが片枝に変形している。また、株立ちで複数の樹幹をもつサクラが多くみられ、五日市街道に張り出し、交通障害の原因ともなっている。本来の樹形である、一本立ちのサクラは少なく、右岸に比べると、名勝景観の劣化が著しい。
- (2) 右岸は、高木の樹木が少なく生育環境が比較的良好である。このため、一本立ちの古木が多く、左岸に対して樹勢も良好で、かつてのヤマザクラ景勝地の壮観な景観を彷彿とさせる。

4 樹木の伐採

既存のサクラの生育環境を改善し、新たに補植するヤマザクラの良好な生育環境（日照や風通し）を確保するとともに、交通障害や倒木事故を予防するため必要な樹木を伐採する。伐採する樹木は、高木を中心とし、既存及び補植するサクラと競合しない樹木は残し緑との調和を図る。

5 ヤマザクラの補植位置

- (1) 左岸は、サクラ並木の景観が衰退している。また、五日市街道に面しており、交通障害を避けるため、フェンスの内側に補植する。新たに補植する場所は、欠損木及び近い将来欠損の恐れのある衰退木に対応する個所とし、おおむね8～10m程度の間隔をとることにより適正な生育環境を確保する。
- (2) 右岸は、比較的生育環境が良く、老木ではあるが、全体の更新時期ではないと判断される。既存のサクラ並木を保存することを主眼とし、欠損部分について、フェンスの内側に補植する。
- (3) 両岸共に、今後、欠損部が発生次第、継続して補植を実施するものとする。